

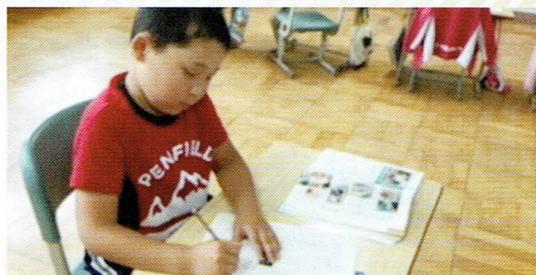
## 研究委託校・実践校の紹介

### 豊浦町立大岸小学校

公開研究会 11月22日(木)

自己と向き合い、他者と関わり合いながら  
学びを深める児童の育成  
～道徳科における指導の改善・工夫を通して～

本校では、道徳科を通して、「自己と向き合い、他者と関わり合いながら学びを深める児童の育成」を目指しています。今年度は、3か年計画の2年次目にあたり、道徳科の授業づくりと児童の学習状況や道徳性に係る成長の継続的な把握と評価を中心に研究を進めています。そして、児童が一つの物事について考える際に、異学年で交流することが多様な考え方、感じ方に出会うことにつながると考え、全校一斉での道徳科の授業にも取り組んでいます。



3年道徳科 「ヤゴ救出大作戦」  
ワークシートで振り返りをしているところ



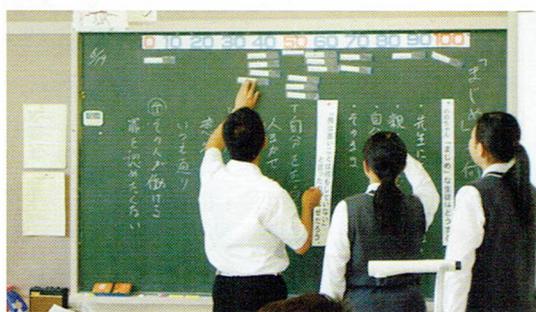
全校一斉の道徳科の授業  
「おふるそうじ」 役割演技をしているところ

### 壮瞥町立壮瞥中学校

公開研究会 11月16日(金)

“自ら考え、伝え合うことができる力”の育成  
～「道徳」における言語活動の充実を通して～

本校では研究主題の『“自ら考え、伝え合うことができる力”の育成～「道徳」における言語活動の充実を通して～』のもと、道徳を研究領域とし、研究を進めています。道徳性検査やアンケートにより本校生徒の実態把握を行いながら、【表現できる場の設定】【教材活用の工夫】【発問の構成】【評価の工夫】などの実践を積み重ね、「自分の考えを伝えると共に、相手の考えを受け止め、実生活で実践しようとする生徒」の育成を目指しています。



3年道徳 生徒が意思表示をしている様子



1年道徳 生徒が発表をしている様子

## 伊達市立大滝小学校

公開研究会 11月16日(金)

### 進んで課題を見つけ、解決する児童の育成

～主体的・協働的な学習指導の工夫～

本校では、研究主題を「進んで課題を見つけ、解決する児童の育成～主体的・協働的な学習指導の工夫～」として、国語科の授業改善を図る研究に取り組んでいます。今年度は2年次で、11月16日に公開研究会を予定しています。少人数複式の学級での言語活動の充実を図る学習活動とはどうあるべきか、子ども達の深い学びにつながる授業を目指し、研究を進めています。次年度の小中一貫学校「徳舜督学校」開校に向け、大忙しの中での研究ですが、少ない人数で知恵を絞って頑張っています。



6年国語科 お互いの考えに対する反論を交わしている様子



5年国語科 興味のある事柄を出し、一つに絞るために話し合っている様子

## 伊達市立大滝中学校

公開研究会 11月16日(金)

### 豊かな心を育む道德の時間

～考え、議論する道德を目指して～

本校では、研究主題を「豊かな心を育む道德の時間」とし、道德科の実施に向けて3か年計画で準備を進めています。今年度は計画の3年目となり、年間計画や別業を整備し、授業の基本的な指導過程を検討して授業改善を進めた1年次・2年次の研究を踏まえ、「ミニ指導案の形式の統一」「価値理解をみとる発問の工夫」「道德ノートの活用」を軸に、自らの考えを持った上で多面的・多角的に考えを深められる授業づくりのため、研修を進めています。



2年道德 「バスに乗って」  
中心発問に対する考えを交流しているところ



3年道德 「二人の弟子」  
発問について考えているところ

## 洞爺湖町立洞爺中学校

公開研究会 11月16日(金)

自ら学ぶ意欲を持ち、学習に関わるスキルを身につけた生徒の育成  
～主体的・対話的で深い学びの活動を通した道徳の授業づくり～

本校では、道徳の授業づくりを中心に2か年計画で研究を推進しています。

今年度は2年目のまとめの年となり、主な取組として4つのことを実践してきました。

- 1 主体的・対話的で深い学びのある道徳の授業づくり【理論研究】(中心発問による学び合いを通して学びを深めることができる授業づくり)
- 2 道徳の授業づくりと指導方法の研究【課題演習】(主題やねらいに迫る発問の構成や学びを深める授業づくりのグループ演習)
- 3 校内授業交流(全教員による公開研究授業の実施と学年内の教員による輪番制の授業交流)
- 4 評価に関わる研究(授業後の学びの振り返りや生徒の学びの見取り方の研修、生徒の成長の様子を継続的に把握できる評価の実践と交流) 今後は評価に関わる研究を中心に推進していきます。



2年生道徳 K-J法を活用した生徒同士の意見交流の場面



1年生道徳 中心発問におけるそれぞれの考えを生徒同士で意見交流を行っている場面

## 白老町立虎杖小学校

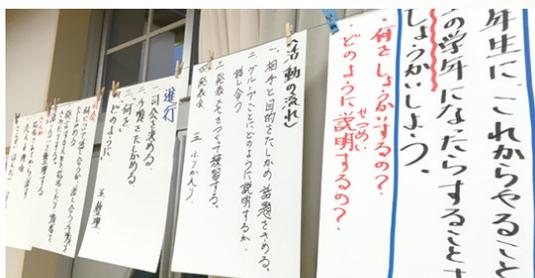
公開研究会 次年度開催予定

自ら考え学ぶ子を目指して

～国語科における指導事項を明確にした授業改善を通して～

本研究では、自ら考え学ぶ子を目指して、国語科に軸を置き、学習指導要領に記載されている指導事項を指導するため、よりよい言語活動を求めて授業改善に取り組んでいます。

そのために、今年度は、児童に身につけさせたい力を明確にした単元指導計画を全員が作成し、授業実践を行っています。また、研究を支える土台として、学習規律や授業の流れ、教室環境など全校で統一を図り、児童も教師も授業に集中して取り組めるようにしています。



3年国語科 「進行を考えて話し合おう」単元計画の掲示



5年国語科 「明日をつくるわたしたち」提案書を書いているところ

## ！理論研究

# 今年度の研究について

### <研究主題>

## 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり(1年次)

### <主題設定の理由>

情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている今、予測困難な時代に向けて子どもたち一人一人が未来の創り手となることが求められています。様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成は、社会的な要請となっています。

平成29年3月31日に告示された新学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。そのために、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等について、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理されました。また、総則において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について規定されました。

私たち教員は、改訂の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点からの学習過程の質的改善が必要となりますが、特に「深い学び」の視点は極めて重要であると考えます。質の高い深い学びを目指す中で、指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、子どもたちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追求し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められます。

また、平成28年度の本教育研究所の調査課題研究「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」から、次のような課題が見られることがわかりました。

《課題として見られること》

- 実践している教科・領域に差があること。
- 教職員間や学校間でアクティブ・ラーニングに対する共通認識を図ること。
- アクティブ・ラーニングの実践的なおさえを具体化していくこと。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を推進するにあたり、学習指導要領改訂の背景や新学習指導要領が目指す姿についての共通認識を図ることが大切だと考えます。



【1年次】	理論研究の基礎・基本
【2年次】	理論研究に基づく実践研究
【3年次】	理論研究のまとめ



教育理論に関する研究の紀要として発行(2月末予定)

！ 調査課題研究

# 今年度の 研究について

胆振管内の小中学校を対象に、各校における「学力向上」の取組について、アンケート調査を実施（7月）

考察を加え、調査課題  
研究の紀要として発行  
（2月末予定）

アンケートの集計結果から、管内の学校における「学力向上」の取組の状況や課題の明確化



平成30年度 胆振教育研究所

## 「冬季研修講座」のご案内

■ 講座のテーマ：「小学校における外国語活動・外国語科の授業づくり」

■ 講師：板垣 恭兵 氏（登別市立幌別小学校教諭 研究所員）  
堀 千佳子 氏（伊達市立伊達西小学校教諭）

日時 平成31年1月8日（火）10：00～11：40

会場 登別市鷺別公民館（〒059-0034 北海道登別市鷺別町3-3-4）

対象 小・中学校の教員（30名程度）

内容 子どものやる気が高まるウォーミングアップやゲームの工夫  
単元を見通した授業づくり  
効果的なアクティビティ など

※詳細につきましては、各校に送付する要項をご覧ください。



### 【研修講座 問い合わせ先】

胆振教育研究所 所員（伊達市立伊達小学校 主幹教諭）本 所 章 宏  
〒052-0023 伊達市元町78番地1 TEL0142-23-3033 FAX 0142-23-0689  
Mail： akihiro-honjo@ed.city.date.hokkaido.jp

平成30年度

# 第73回 北海道教育研究所連盟研究発表大会(函館大会) 兼 第60回 全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

平成30年8月30日(木)・31日(金)フォーポイントバイシェラトン函館を会場に北海道教育研究所連盟研究発表大会が開催され、本教育研究所から事務局長が参加しました。北海道教育研究所連盟共同研究について研究協議を行うとともに、各加盟機関での教育研究、教員研修等の取組について、交流・協議することにより、北海道教育の一層の充実・発展、並びに所員及び研究員、教職員の資質向上を図ることを目的に開催されました。

## 1日目 全体発表・記念講演

### ■ 全体発表

#### ○発表者

平成30年度共同研究推進委員会委員長  
函館市南北海道教育センター研究員 山崎 修

#### ○第16次共同研究主題(2年次目)

「これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上に係る支援の在り方」  
(北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会)

#### ○研究内容

##### 研究内容1 コンテンツによる支援

- ・校内研修に活用できるミニ研修コンテンツ「道徳科の授業づくり」の活用・改善
- ・校内研修に活用できるスライド画面等のプレゼンテーションの作成、ミニ研修コンテンツに関わる板書画像等の収集
- ・若手教員の育成を目指す「メンター研修」等において、短時間で行う校内研修計画の作成または改善

##### 研究内容2 ICTの活用による支援

- ・事務局で準備したWi-Fiルーター等の活用を希望する教育研究所・研修センターに貸し出し、ビデオ通話ソフトウェア(Skype)等を活用した研修等を実施

### ■ 記念講演

- #### ○演題 「新学習指導要領の移行期間に、学校、教育研究所・研修センターは何をすべきか～『カリキュラム・マネジメント』『主体的・対話的で深い学び』の充実に向けて～」

- #### ○講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 渋谷 一典 氏

## 2日目 部会別研究発表及び協議

### ■ 部会別研究発表及び協議

#### ①テーマA 「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」

- ・確かな学力を育てる小中一貫教育や小学校英語教科化に向けてのカリキュラム改善の具体  
三笠市教育研究所 松井 牧子  
玉田 恵

#### ・カリキュラム・マネジメントに関する調査～「カリキュラム・マネジメント」の実現を

目指す現状と課題～  
胆振教育研究所 高橋 賢治

#### ②テーマB 「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに関する研究」

- ・「道徳」の時間における児童生徒の道徳性の育成～主体的に考え、議論する展開の工夫を通して～  
石狩教育研修センター 庄子 京平

#### ・深い学びを実現する学習指導の在り方～各教科における

主体的・対話的な学びを通して～  
上川教育研修センター 望月 俊綱  
田村 仁  
吉野 和気  
斎藤 邦彦

※研究発表大会の詳細につきましては、北海道教育研究所連盟のホームページをご覧ください。随時更新される予定です。

<http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/index.html>



■発行所 胆振教育研究所 TEL・FAX 0143-80-3100 ホームページ <http://www.iburi-education.jp/>  
〒059-0551 登別市登別温泉町123-1 のぼりべつ文化交流館 カント・レラ2階

■発行者 土井 嘉 啓

■印刷所 (有)デザインワーク・エーチ 登別市幌別町6-20-34 TEL 0143-88-1890・FAX 0143-85-1890  
E-mail [work.d@bridge.ocn.ne.jp](mailto:work.d@bridge.ocn.ne.jp)

所報

いぶり